

競 技 注 意 事 項

1. 本大会は、2006年度日本陸上競技連盟規則及び本大会実施規則によって行う。

2. 競技者の招集について

(1) 招集所は、第4ゲート（第4コーナー外側）前に設置する。

(2) 招集時間

競 技 種 目	招 集 開 始 時 刻	招 集 完 了 時 刻
トラック競技	競技開始40分前	競技開始20分前
フィールド競技	競技開始60分前	競技開始40分前

(3) 招集の手順

(ア) 競技者は、招集完了時刻までに招集所で待機し、最終点呼を受けた後、競技者係の指示に従うこと。

(イ) 代理人による最終点呼は認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめその旨を最初の種目の招集時に申し出ること。

(ウ) 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目に出場できない。

3. ナンバーカードについて

ナンバーカードは、各学校に割り当てられた中体連番号または、福岡陸協の個人ナンバーカードを使用すること。

4. 競技について

(1) 走高跳、におけるバーの上げ方は、次のとおりとする。

男 子	130（練習）135－140－145－150－155－160－165 以後3cm ずつ
女 子	115（練習）120－125－130－135－140－145 以後3cm ずつ

順位決定のためのバーの上げ下げは、2 cm とする。

※棒高跳のバーの上げ方については、競技開始前に審判長が決定する。

(2) 競技運営上、下記未満の記録は計測しない。

男子 走幅跳 4 m 5 0 砲丸投 7 m 0 0

女子 走幅跳 3 m 7 0 砲丸投 7 m 5 0

ただし、(1)、(2) 項目については、コンディション等により変更することがある。

(3) 短距離走では、競技者の安全のため、フィニッシュしたあとも自分のレーンに沿ってカーブを走ること。

(4) リレー及び走高跳の助走マークは、使用してもかまわない。ただし、各自責任を持って片付けること。

(5) 競技場内における跳躍、砲丸投の練習は、審判員の指示に従って行うこと。

(6) 競技者は競技する以外は、トラック及びフィールドに立ち入ることはできない。

5. 競技の抽選及び番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技の走路順及びフィールド競技の試技順は、プログラム記載順の左から右へとする。
- (2) トラック競技（短距離種目）の予選は、すべてタイムレースで行い、記録の上位24名以内を準決勝に出場させる。組分けやコース順は、番組編成員によって行い、その結果は、競技者の招集所に掲示する。ハードル競技およびリレー競技は、8名（8チーム）以内で決勝を行う。
- (3) トラック競技の800m以上の種目の予選は、タイムレースで行い、800mは10名、1500mは20名、3000mは24名程度を決勝に出場させる。
- (4) トラック競技のプラスアルファの決定で同タイムが出た場合は、写真判定を1000分の1まで拡大し、判定する。それでも同タイムの場合は、抽選で決定する。
- (5) リレー競技のオーダー用紙は、競技開始1時間前までに招集所に提出すること。
- (6) 砲丸投は記録で12名程度を決勝に出場させる。

6. 練習について

- (1) ウォーミングアップは、すべて補助競技場または、雨天練習走路を使用すること。
- (2) フィールド種目の練習は、競技開始前に競技場内で行う。

7. 表彰について

- (1) 表彰は、各種目とも3位まで、成績アナウンス後ただちに行う。入賞者は、決勝終了後、ただちに本部の表彰者控席で待機すること。
- (2) 入賞者の得点は、1位8点、2位7点、以下6、5～8位1点とする。
- (3) 団体は、男女別に総合の部3位まで表彰する。

8. その他

- (1) 使用する全天候用シューズのスパイクの長さは、9 mm 以下とする。ただし走高跳については、12 mm 以下とする。
- (2) リレー競技でのブルーラインは、使用してもさしつかえない。
- (3) 異議、抗議の申し立ては、正式アナウンス後15分以内に各区専門委員を通して審判長に申し立てるものとする。
- (4) 競技中に発生した傷害、疾病について応急処置は、主催者において行うが、以後は各学校の責任とする。